



こんにちは
日本共産党

市会議員

西野さち子です

くらしの目線で市政を変える

税金の使い道は、くらし・福祉をいちばんに!!

今年、最初のキャラバン宣伝を行いました



キャラバン宣伝の最後は北醍醐。西野さち子市議、ばば紘平府議が、おおぜいの後援会のみなさんと一緒に訴えました。

1月16日に馬場府会議員や後援会の皆さんと今年最初のキャラバン宣伝を行いました。

今回は団地を中心に訴えましたが、寒い中での場所でも車を待っていていただき、励まされました。

最初は桃山南団地の山田屋前で西野市議は「昨年の総選挙で21議席になりました。この力をフルに生かして、まずは、政党助成金廃止法案を出す予定です」「税金のムダ使いは京都市でも止まりません。ごみ袋代の収益で4億円の展望台の計画は中止すべきです。京都市は今、2億5千万円でできると言い出しました。皆さんの声が京都市を追い詰めています。中止まで頑張り

ます。」と訴えました。

最後の北醍醐では、家から出てきて最後まで聞いて「応援しています」と声をかけてくださる方が多く、住民運動で力を合わせてきたことが地域を守っていることを実感しました。

市政報告

東部山間埋立地はあと1世紀使える可能性も

1月9日に開かれた第56回京都市廃棄物減量推進審議会で、東部山間埋立地の延命策のあり方について答申案が出されました。

この間、焼却灰溶融施設が契約解除されたことから、埋立地の延命策が検討されてきました。焼却灰のセメント化や鉄分回収、新たな溶融施設の建設などが検討された結果、複数の延命策

を組み合わせることで、効果とコストだけでなく二酸化炭素の排出量なども考えることなどの必要性が指摘されました。まずは、



日本共産党 2016年夏参議院京都選挙区予定候補を発表

政治をかえてこそ

苦しみの現場から、動き始める。

おおかわら 弁護士 大河原としたか

大河原としたかさんは、京大法学部卒の38歳。10歳と8歳の男の子の父親です。

「中国残留孤児、原爆症認定、派遣切りなど様々な問題に直面し悩んでいる当事者を救済するためには、裁判の争いだけでなく、制度や法律を変えなければ根本的な解決にならない。その思いは増すばかりでした。さらに、集団的自衛権の行使容認や秘密保護法など、「戦争する国づくり」の足音が迫ります。消費税増税、原発再稼働を絶対に許すことはできない」と決意を語られました。



写真は「民主府・市政の会新春のつどい」で西野市議と大河原としたかさん

早期に実施可能なクリーンセンターでの鉄分回収などの可能性追求が提案されました。そして、最後に、「東部山間埋立地の残余年数あと約56年としたが、将来より一層のごみ減量を図るとともに、今回検討した様々な延命策を総合的に組み合わせることで、1世紀近く使用できる可能性も見えてきており」とされました。